

# 富山市定例市長記者会見（令和3年8月2日）

## ■冒頭

市長

皆さん、こんにちは。市長の藤井でございます。

報道関係者の皆さんには、日頃から大変お世話になっております。

また、本日は大変暑い中、お忙しい中、このようにお集まりいただき、ありがとうございます。

それでは、定例記者会見の説明を始めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

## ■Street Pianoプロジェクトについて

市長

このたび、本市では、かつて幼稚園や児童館に設置され、現在は使用していないピアノを活用し、まちなかの広場などにペインティング装飾を施したストリートピアノを設置して、街に来られた方々に自由に演奏いただくプロジェクトを行います。

設置するピアノは合計3台で、富山駅南北自由通路北側にグランドピアノを1台、オーバード・ホール1階及びウエストプラザにアップライトピアノを各1台設置いたします。

先月14日に移設を終え、現在は一般開放に向け、富山大学芸術文化学部の卒業生で市内を中心に活動し、稲荷公園のフリーアートキャンバスプロジェクトにも協力いただいている画家の池田<sup>あかり</sup>愛花里さんの手で、ピアノへの色鮮やかなペインティング装飾が施されているところであります。

なお、ウエストプラザのストリートピアノにつきましては、9月26日に開催予定の「農林水産物ワンデージャックフェスタ」や「トランジットモール」の開催に合わせ、これらのイベントを盛り上げるため、ライブペイ

ンディング企画を予定しております。

ストリートピアノの一般開放は、今月 11 日（水）正午からとし、3 か所のそれぞれにおいてオープニング記念演奏を行います。

オープニング記念演奏では、桐朋学園の学生や市内のピアノ教室に通うお子さんらに演奏を披露いただくこととしております。

さらには、より多くの市民の皆さんなどに気軽に演奏を楽しんでいただけるよう、今後、プロモーション用 CM や PR 番組を制作し、You Tube 等で放送するなど、広く周知を図ってまいりたいと考えております。

本市では、このストリートピアノプロジェクトを通じて、「コロナの時代」にあっても、まちなかで身近に音楽に触れることのできる機会が広がり、芸術文化の持つ創造性により感動や潤いがもたらされ、まちが賑わうとともに暮らしに活気があふれることで、市民の皆さんの幸せな暮らしに繋がっていくことを大いに期待しているところであります。

## ■凍霜害等による呉羽梨への支援について

市長

とうそうがい

先般の市議会 6 月定例会でも答弁しました呉羽梨の凍霜害等に対する支援について、概要が固まってきましたのでご報告いたします。

まず被害の概要については、6 月 28 日からの県と本市などによる生育調査によりますと、本年の呉羽梨の出荷できる量は、例年の 4 割程度だということでもあります。

その内、各農家を取り引きしている分を除くと、選果場に持ち込まれる量は例年の 2 割程度となり、かなり深刻な状況となることが分かってきました。

あられ

さらに、霰により傷がついた梨や、霜の影響で大きくならなかった小玉の梨も多く出てくるのではないかという結果でありました。

これを受けまして、呉羽梨選果場においては、より多くの市民の皆様に梨を食べてもらえるように、例年であれば直径 8.5cm 程度の大きさの梨を出荷していますが、今年に限っては、これらに加えて直径約 7 cm 程度の小玉の梨までを出荷することになったと伺っております。本当に深刻な状態だと考えております。

このことから、「呉羽梨緊急支援プロジェクト第 1 弾」として、今年度に限り、出荷される小玉の梨の出荷に必要な掛かり増しのダンボール箱等の資材に係る費用について、梨の出荷に間に合うよう支援することとしました。

この小玉の梨は、例年より小ぶりではありますが、通常の高さの果実と美味しさは変わらないと伺っておりますので、市民の皆様には小玉の梨も積極的に購入いただき、産地を応援していただきたいと思ひます。

次に、出荷数が少ない農家を支援するために、市内菓子店等で規格外の果実をスイーツ等に積極的に利用していただくことで、規格外の果実の活用を促進することにしました。

今回の梨のように、霰により傷がついた果実は、傷のついたところは食用には向きませんが、それ以外の部分は食味や食感ともに従来の果実と変わらないということであります。

これらを原料としたスイーツ等を市民の皆さんに積極的に購入いただき、こちらでも産地を応援していただきたいという取組みであります。

なお、この事業については、規格外の果実であれば、梨以外も対象といたします。

これら 2 つの事業につきましては、梨の収穫が例年 8 月上旬から始まり、お盆過ぎに最盛期を迎えることから、直ちに対応することとしております。

これ以外にも 9 月議会補正予算において、「呉羽梨緊急支援プロジェクト第 2 弾」を検討しており、市議会にお諮りしたいと考えております。

いずれにしましても、本市のブランドである呉羽梨の生産者の皆様の気持ちが折れることなく、希望を持って梨作りにいそしんでいただけるよう、しっかりと支援してまいりたいと考えております。

## ■ 山田地域における地域おこし協力隊員の採用について

市長

山田地域では、水稻をはじめ、リンゴや啓翁桜、馬鈴薯やソバ、エゴマなどの特色ある農産物が生産されており、農業の盛んなところではありますが、農業従事者の高齢化や若い方々の離農などによる担い手の減少が進んでおり、今後、生産量の低下や耕作放棄地の拡大などを懸念しております。

このような中において、農地の保全のほか、新たな視点・発想を取り入れて、地域住民と連携しながら地域の持続的な発展を目指す取組みとして、令和 3 年 6 月 10 日から「地域おこし協力隊員」を 2 人公募しました。

そして、この度、1 人の方の 8 月 1 日からの採用を決定いたしましたので、ご紹介したいと思います。

採用いたしましたのは、兵庫県神戸市在住の井上俊明さんです。

井上さんにつきましては、調理師免許及び日本ソムリエ協会の認定ソムリエを取得されており、大学卒業後、都市部のフレンチレストランにて調理や接客サービスに長年従事してこられました。

今回、富山市の中山間地域での暮らしに興味を抱かれ、本市の公募に応募されたものであります。

今後、山田地域における営農支援活動をはじめ、農産物直売所「山田の<sup>かかし</sup>案山子」を拠点とした情報発信、新しい特産加工品の開発などに取り組み、山田地域の持続的な発展に貢献したいという気持ちを力強く語っておられます。

なお、地域おこし協力隊につきましては、平成 27 年に 2 人の方々を隊員として山田地域で受け入れており、現在も同地域で営農活動に従事され、地域の重要な農業の担い手として活躍されております。

今回、採用した井上さんにおかれましても、山田地域の活性化に尽力いただけるものと大変期待をしております。

現在、もう 1 人の公募を継続しているところであり、本市といたしましては、地域おこし協力隊員制度を活用し、山田地域活性化の担い手となる人材を確保し、地域力の維持・強化を図っていきたいと考えております。

## ■ 富山駅周辺エリア官民連携推進事業における社会実験等について

市長

令和 2 年 3 月、「市民 100 年の夢」であった南北接続が現実のものとなりました。富山駅北口駅前広場の今年度末の完成を皮切りに、駅北エリアでは中規模ホールの建設やブルーバールの再整備、駅南エリアでは 2022 年春に、ホテルと商業施設「MAROOT（マルート）」との複合ビル開業が予定されるなど、エリアの魅力や付加価値を高める事業が官民双方で盛り上がっているところであります。

こうした動きを捉え、現在、路面電車南北接続を契機に、駅北エリア、富山駅、駅南エリアの 3 エリアからなる富山駅周辺エリアにおいて、官民が連携しながら、市民が日常的に滞留し、歩きたくなる空間づくり等を実現するため、富山駅周辺エリア官民連携推進事業を進めております。

本事業では、令和 3 年度に社会実験等を通じて、当該エリアのまちづくりに対する民間事業者等の意識醸成に向けた取組みを実施するとともに、官民が連携し、当該エリアの一体的なまちづくりを進める基盤となるエリアプラットフォームの構築を目指しており、令和 4 年度以降に当該エリアの未来ビジョンの策定を予定しております。

まず、今年度を実施する社会実験として、具体的には、既存イベントとの連携による新たな日常の創出を図るため、5～10 月の月末金曜日に開催

しております「ゆうぞら駅市」と連動し、8月27日、9月24日、10月29日の3回にわたり、「よぞら駅道」と題しまして、夜間時における駅北ブールバールの歩行空間を活用したテラス席営業など、様々な民間のステークホルダーと共催で事業を行うこととしております。

この他、南口駅前広場等において子ども向け遊具を設置するなど、遊び場を提供することで、平日昼間の外出行動の喚起を図るなど、様々な社会実験等を通して、富山駅周辺エリアの持つポテンシャルを把握するとともに、持続可能な官民連携のあり方を検証してまいりたいと考えております。

また、南北一体的なまちづくりについて、官民の意識醸成に向けた取り組みとして、来月26日に富山駅北口駅前広場におきまして、北陸電力株式会社代表取締役社長の松田光司氏、富山ターミナルビル代表取締役社長の水田 整氏と私の3人で、南北接続の実現による富山駅周辺エリアの変化や未来への期待などについて対話するトークイベントを開催します。

さらに、11月6日には、オーバードホール・ハイビジョンシアターにおいて、全国各地で官民連携による魅力的な都市空間の創出に取り組んでおられます、有限会社ハートビートプラン代表の泉 英明氏、株式会社ワークビジョンズ代表の西村 浩氏にご講演いただくとともに、東京大学大学院特任助教の三浦 詩乃氏と、本市の三浦副市長を加えた4人によるパネルディスカッションを行うこととしております。

こうした社会実験やトークセッションを通じて市民や沿線企業、エリア内で生活されている皆様と、富山駅周辺エリアの未来について意識を共有し、幅広い視点から持続可能なまちづくりを考え、実践するきっかけとなることを期待し、コンパクトなまちづくりによる都市の実りを活かした、官民連携によるまちづくりを、一層推進してまいりたいと考えております。

本日の私からの報告は以上であります。



## ■ 質疑応答

記者

まず、市長就任から昨日、8月1日で100日が経過し、いわゆる「ハネムーン期間」が終了しました。これまでを振り返っての市長の想いと、今後の市政運営に向けての想いを、それぞれお聞かせください。

2つ目として、先月11日から学校再編に向けたワークショップが開催されています。各会場における市民の声を踏まえ、学校再編に関する市長の考えや、今後の学校再編に向けての動きをお聞かせください。

合わせて、過去の学校再編に関連して、今春、市教育センターが旧八人町小学校から Sakura ビルに移転しましたが、旧八人町小学校跡地の今後の活用方法について、見解をお聞かせください。

市長

まず、1点目のお尋ねについて、市長に就任してから昨日で100日が経ったわけですが、あっという間だったなと思います。

この間、臨時議会や6月定例会がありました。そして、就任早々から、新型コロナウイルスワクチン接種の推進に今日まで取り組んでまいりました。おかげさまで本市内において、ワクチン接種はほぼ順調に進んでいると思います。

医療従事者の皆さんや、日頃からそれを支えていただいている方々、市民の皆さんのご理解によりまして、当初目標としていた高齢者の方々の7割接種、実際にはこれより（接種率は）高くなりましたけれども、このことに一番汗をかいてきました。今後も引き続き、気を抜かずに一生懸命取り組んでいきたいと思います。

加えて、森前市長がリーダーシップを発揮され、（本市は）公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりに取り組んできました。

さらに、市全体の政策の冠としてSDGs未来都市の選定を受け、それを根底で支える都市構造がコンパクトシティ政策であると思います。

その間には、レジリエントシティへの取組み、環境への取組み、超高齢社会への取組み、子どもたちへの教育、農林水産業への取組み、もちろん

コロナ禍において経済をどうするのかということもあります。多くの事柄があるわけです。

大きな富山市でありますので、コンパクトなまちづくりという1つの成功事例を示しつつも、各所にそうした問題を抱えながら走っているということも見えてまいりました。

富山市は大変広い市域を有しており、沿岸部もあれば、中心市街地や、私の住んでいるような田園地帯、中山間地や里山もあります。

そして市全体の面積の7割が山林であります。こうした3,000m級の山々から水深1,000mの富山湾まで、大変ダイナミックな地形を有しています。

それぞれに特有の地域性というものがあり、それぞれで頑張っている方々がおられます。「中心市街地や富山駅の周辺は良くなっているかもしれないが、自分たちの住んでいるところはなかなか良くなれないぞ」という声をお聞きしていることも事実であります。

コンパクトシティ政策の果実をどうすれば、うまく全市域へお届けできるのか、そのためには、コンパクトシティ政策において地域の核となるいわゆる「団子」の部分、そして、それらを結ぶ二次交通やその核の周辺での三次交通（の機能充実）に取り組み、いわゆるコンパクトシティの完成形をしっかりと作っていかなければならないという問題点も見えてきました。

一方で、市内のデジタル化も待ったなしであり、しっかりと取り組まなければなりません。そして、住民サービスの質を落とさないことです。

（市内の）どこに住んでいても同様の情報的なサービスが受けられること（が大事であり）、市役所への申請や証明書の発行などを含め、大抵のことはデジタルで出来る社会になりますので、デジタル面での格差があってはなりません。

そういう意味でのスマート化にしっかりと取り組んでいきたいということに意を新たにしているところであります。



今年度から来年度にかけて、市のスマートシティ推進ビジョンを策定するということでその組織も立ち上げ、6月議会で予算付けもさせていただきましたので、スマートシティの推進にしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

次に2点目にお尋ねの「子どもと学校、地域の未来を育むワークショップ」についてですが、大沢野会場を皮切りにこれまで4回、一昨日は岩瀬カナル会館を会場として開催してきたわけです。

市が説明をして、それに対して質疑応答を行うという従来多くあったスタイルではなく、少人数のグループでのワークショップスタイルで、地域の未来、子どもたちにとってその地域がどうあってほしいのか、学校がどうあってほしいのかということについて、1グループ5～6人で、7～10グループに分かれて、活発かつ積極的に意見交換が行われていました。

学校再編そのものについては教育委員会の所管事項ですので、市長である私としては、総合教育会議の中で議論を重ねていきたいと思っています。

ただ、私見として申しますと、小学校や中学校は地域の中心であり、小規模の学校には小さな規模なりの良いところがありますし、大規模の学校には大きな規模の良いところがあります。

そこで、私の経験から言いますと、各年代に応じて、例えば中学校の部活動などはある程度の規模がないと成り立たないということがありますし、ある程度の社会性を身に付けたり、高校や大学へ行くための基礎の部分というものは中学校の段階で大きく出来上がってきます。

たくさんの方々に囲まれて、その中で切磋琢磨していくということは非常に大事ですので、適正な規模という観点はやはりあるのかなと自分なりに考えています。

先ほども申し上げましたが、小学校や中学校は地域の中心であって、富山県では「小学校区」と言わずに「小学校下」という呼び方もしていましたね。この「校下」というのは城下町の「城下」であります。

こうした「校下」という言い方もしていただくくらいに、小学校が地域の中心であって、小学校を中心に物事を考えるという文化が未だにあるわけです。そして、その力が自治会や町内会の力になっているということもまた事実であります。

そういうことも含めて、地域性や通学区域、適正規模や適正な児童・生徒数、あるいは活動内容等々も鑑みて、地域の方々が主体となって一生懸命に考えていただければ、それになるべく添うように我々も心を寄せていかなければならないのではないかと考えています。

令和3年度中に教育委員会としての方向性、案が提示されると聞いておりますが、それは教育委員会の案でありますので、そこからがスタートで、議論の始まりだと捉えております。地域の方々との議論がしっかりと深まれば良いと考えております。

水橋エリアの5小学校、2中学校の（統合による）義務教育学校（の設置）という形も、地域の方々の多くの議論や葛藤の中から生まれてきた要望でありますので、そのような形が各々の地域で生まれ、議論が起こって、それぞれが良い地域になっていけばと思います。

最後に旧八人町小学校の跡地利用についてですが、中心市街地であれだけまとまった面積の土地はあそこしかないと言っても過言ではないと思います。

富山市はここ数年、コンサルティング会社を通して、どのような活用方法があるのかということも含めて、もちろん地元の方々の意見の集約も含めて（検討を重ねてきており）、さらに現在、（併設する）体育館は開放していますので、地域の方々も使用しておられますが、（そうした中でも）いくつか問題はあると思っています。

あのような場所であるが故に、何でもかんでも持ってくるわけにはいかないということであり、地域の中心であった小学校の跡地でありますので、地域全体を見渡した中での旧八人町小学校の跡地の位置付けという観点もあります。

一方で、やはりあの地域はもともと学校施設、福祉施設があり、オフィスや住宅街もあるという環境の良い地域ですので、そういうエリアにどのような施設がふさわしいのかという観点もあります。

そうしたことから、もう少し議論を煮詰めていく必要があるのではないかと考えています。

加えて、私も何回か行きましたが、あの地域は道路が狭いですよね。

それがネックの1つとなっていますので、本市では、市道の側溝改修や道路の幅員を確保する工事も行っていますが、こうしたこともしっかりと行いながら利用価値の高い土地にしていきたいと考えています。

---

記者

呉羽梨への支援について何点かお伺いします。まず、今回の支援については専決処分ということでしょうか。

市長

予算流用による対応となります。

記者

事業費としてはどれくらいを見込んでいるのでしょうか。

市長

まず、小玉の梨の出荷に必要な掛かり増しの段ボール箱等資材に係る経費の2分の1を補助する小玉呉羽梨販売促進緊急支援事業については79万5千円です。

また、呉羽梨等を材料としたスイーツ等の新たな商品開発への支援である規格外果実販売促進緊急支援事業については、1店舗当たり5万円で、10店舗分の50万円であります。

記者

こういう形で自然の被害を受けた呉羽梨を支援するというのは今までに事例はあったのでしょうか。

市長

平成 27 年に黒星病への対策として、掛かり増し経費に対する支援、補助を行ったことがあります。

記者

梨農家については基本的に農業共済や収入保険への加入が進んでいて、収入の補填ということではある程度カバーされる部分があると思うのですが、それを踏まえてもなお、今回、呉羽梨に特化して支援するという妥当性、意義付けということについてお聞かせください。

市長

既存のセーフティネットとのすみ分けの部分だと思いますが、農家の収入減少は今おっしゃったように基本的に収入保険等で補われるものと考えております。

そこで、今回の支援は、掛かり増し経費への助成と規格外果実の利用促進により、経費の圧縮と農家の収入を少しでも底上げしようとするものであり、販売収入が増えれば保険から控除されますので、保険と補助の二重取りにはならないと考えています。

富山県の特産品は水稻を中心として、今のシーズンではスイカであったり、いろいろな作物がありますが、富山市の呉羽梨は全国的にも有名で、果樹や野菜などの本市の農産品全般を引っ張っていけるようなトップブランドであります。

この呉羽梨は全国にも出荷されているわけですが、今回の大幅な収量減によって出荷できないという事態も発生するわけです。

そうしますと、梨農家や農業協同組合は、翌年以降の注文が来るのかということも心配しなければなりませんので、呉羽梨というブランドを継続していくために、本市として、出来る限り支えていきたいと考えています。

記者

東京 2020 オリンピックで富山市在住の中山楓奈さんが見事銅メダルを獲得され、中山さんに対して、県は県民栄誉賞の贈呈を検討されるということですが、富山市として何らかの賞の贈呈を検討する考えがおりなのかということと、スケートボード競技への市としての今後の支援についての考えを合わせてお聞かせください。

市長

中山さんの今回の銅メダル獲得については、我々も大変元気をいただきました。

本市としても中山さんが銅メダルを獲得された次の日から段取りをして、まず、お祝いの懸垂幕を市庁舎に大きく掲げさせていただきました。

中山さんへの何らかの賞ということについては、これから関係課と相談し、県とも相談しながら、今後、考えていきたいと思っています。

スケートボード競技への支援については、新しい競技で人気が大変盛り上がっているということで、私のもとにも SNS で、「中山さんは市の NIXS スポーツアカデミーで腕を磨いてきたのだけれども、彼女の競技レベルからすると、もう少し改良が必要だよ」というようなご意見もダイレクトに届いております。

いろいろな可能性を考えながら、今後、この競技の人口が増え、盛り上がっていくようにしていきたいと考えております。

---

記者

4 つ目の発表項目である、富山駅周辺エリア官民連携推進事業における社会実験等に関連して、現在、富山駅周辺エリアでのハード面の整備とブランディングということを進めておられると思うのですが、どのようなところに課題を感じておられるのか、また、今回の取組みによって最終的にどのような結果になっていけば良いと考えておられるのでしょうか。

市長

富山駅周辺については、北陸新幹線の開業や昨年 3 月の路面電車南北接

続があって、何のストレスもなく南と北を自由に行き来できるという状態が完成したわけです。

そこで、今までの（駅周辺エリアの）ことを考えると、駅構内のエリアというのがまずあって、そこでは店舗があって、駅の利用客が往来するわけです。

駅南エリアにはオフィスビルもありますが飲食店も多く、非常に賑やかなエリアであり、駅北エリアはオフィス街であるというようなすみ分けがどうしてもあるわけです。ここには今まで南と北の行き来が少なかったという問題点があるわけです。

駅構内を利用されていた方々、駅南エリアしか利用していなかった方々、あるいは駅北エリアしか利用していなかったオフィス街（にお勤め）の方々がおられるわけですが、様々なイベントやエリアの使い方の検証を行うことで、駅周辺エリアの滞在時間を長くしていただき、そこで遊びも出来るし、憩いの場でもあるし、飲食も出来るし、学びの場でもあるというように（駅周辺エリアでの）回遊性を高めていきたいと思えます。

そうした様々な使い方を駅周辺で一体感を持ってやっていただくための実証実験を、例えば企業や市民、駅を勤務等で利用される方々、市役所ももちろんそうでありますけれども、様々な異業種の関係者がいろいろな事業を行いながら、富山駅周辺エリアの今後の方向性に関してビジョンを作り上げていくということは非常に大事だと考えています。

記者

駅南エリアとも駅の構内とも違う別の立ち位置での新しいポジショニングということが出来そうだということでしょうか。

市長

そうですね。エリアでいうと駅南、駅周辺、駅北という3つの区分があると思うのですが、これらを一体的に利用するということが人流を作り、そして、滞在時間を長くしていただくということが大事です。

（そのために）駅北では中規模ホールを整備しますし、プールバールの再整備も3か年で行いますし、グリーンスローモビリティも運行していま

すので、こうした取組みによって新たな人流が発生すると思います。

様々な新しい取組みを行っていますので、それらが南北一体化の流れを一層作り出せれば良いと思っています。

---

※発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課